

STATEMENTS 212 2019



行動するシンクタンク
一般財団法人 下関21世紀協会
Shimonoseki 21st Century Association

思索の人として行動し、行動の人として思索せよ
アンリ・ベルクソン (Henri Bergson) [1859 ~ 1941] フランスの哲学者

希望の街の“優しい明日”へ

一般財団法人下関21世紀協会 会員 井川 典子

私は下関に生まれ、下関で学生生活を送り、社会人になり、一度も市外に住むことなく、現在も大好きな下関にお世話になっています。

下関を離れたいと思わなかったと言えようそになりますが、旅に出て、下関に帰るとほっとする、海峡を見ると癒される、やはり下関がいいとつくづく感じます。

20代の頃、このまちの批判をした私に父は「下関は自分のまちだから自分が良いと思うまちになるように、自分がまちのために出来ることを考えなさい」と言われたことがありました。それをきっかけに、“まちのため”とか“まちづくり”ということに関心を持ち、まちづくり団体である下関青年会議所に入会しました。この下関青年会議所での9年半の活動がなければ、今の私の人生の選択はなかったと思います。

下関青年会議所の創生からのバトンを受け継いで来られた先輩方は、強い志を胸に、このまちのために、そしてこのまちに住む人々のために活動をして来られました。そしてそこには、常に50年後、100年後の“このまちの姿”を想像し、夢を抱き、そこに向けて実現するよう追求して来られました。私が活動していたあの時もそれは長い歴史の中の“点”であり、未来への中継点でした。でも、私たちが一生懸命議論し、提案し、描いた未来への想いと理想は脈々と今に生き続けていると信じています。未来の姿を描けなくてまちづくりはできないと思います。



あるかぼーと開発イメージパース(下関市HPより)

今下関は、“希望の街”に向けて発展しようとしています。下関が海峡都市として、海峡と歴史と文化に溢れたまちづくりを成し遂げるチャンスが到来しています。長年、下関の一大プロジェクトと謳われてきた、あるかぼーと、いわゆる下関港ウォーターフロント開発が始動しています。海峡花火が打ちあがるエリアにホテル誘致が決まる等これから着々と開発が進んでいきます。

私は、この開発はこのまちと市民のこれからを決める起爆剤となる重要な施策であると思います。観光・物流と経済浮揚の観点と市民の皆さまの生活環境づくり、この2点がどう融合するのか。この点についてより完成度の高い計画を考える時、民間が傍観することなく、むしろ積極的に関与して行政とともにまちづくりを進めることが大事だと思うのです。

15年前にウォーターフロントの未来像を議論し、関門連携やアジアの玄関口としての今後を語り合った下関青年会議所時代、今も現役メンバーは議論していることでしょう。こういったまちづくりの流れや情報、まちに関わっている団体が連携をして提案をしていく事がこの開発をほんとうにこのまちのため、市民の為のものにし、一般の市民が自分のまちのことに反応してくれるのではないのでしょうか。下関21世紀協会での声掛けをしていく事もあるのかと思います。

情報の発信と享受の十分な状況が出来てない中で、市民の方々が市の施策を自分の事として捉えることは中々難しいかもしれません。でも、市民の方々と一緒になってこのまちを考えたいと願うのです。だから私は、1人でも多くの方と話すことを大切にしています。

掲げた夢や理想に向かって、どこまでも、とことん、下関市政に向かっての提案に取り組んでまいります。市の掲げる政策により市民の声が反映され、より素晴らしい政策となるように。

このまちに住んでよかった、未来に希望が持てる、子どもたちは一度は外に出てもやっぱり下関に帰りたい、住みたいと思ってもらえるような人に優しいまちづくりの活動に真摯に取り組むことが私の責任であり、使命であると思っています。

